



クルマエビ

主な漁業と漁期

袋網・たきや：5月～10月

生態

クルマエビは、砂泥域の浅海に生息し、我が国を代表するエビとして知られています。

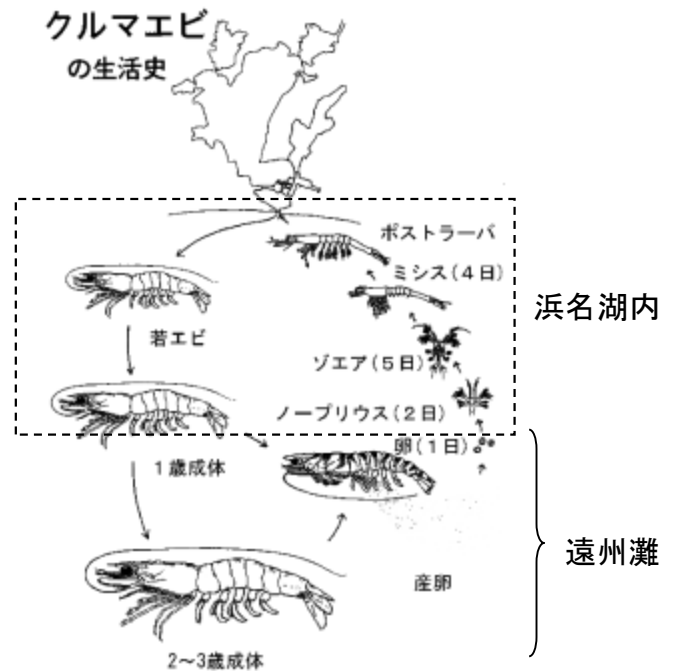
●分布・回遊

クルマエビの地理的分布は水温条件に影響され、北海道と東北太平洋沿岸の一部を除く地域で生息が可能です。

静岡県では、浜名湖において小型の未成熟のエビが、その周辺外海において大型の成体エビが生息しています。

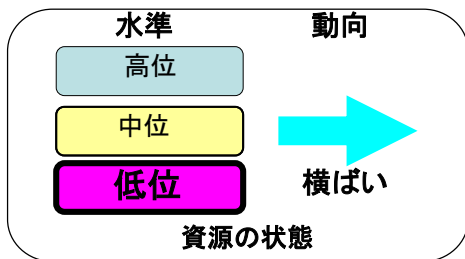
●産卵・成長

産卵場は遠州灘西部と伊勢・三河湾の湾口部～水道部付近から内湾部です。産卵場から供給された浮遊幼生(図ポストラーバなど)が、浜名湖口から湖内に流入し、浅所に着底して成長します。これらのエビは着底後1年を経ず、成熟前に外海に移出していきます。このように、浜名湖は伊勢湾・三河湾と並んでクルマエビの育成場になっています。



漁業・資源動向

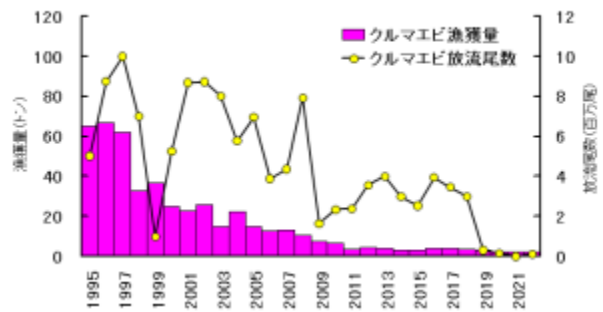
【資源】



- 1 浜名湖のクルマエビは、伊勢・三河湾、遠州灘のクルマエビと同じ地域個体群と考えられています。
- 2 浜名湖の資源状態は過去5年間の推移から資源水準は「低位」、動向は「横ばい」と判断されています。

【漁業】

- 1 全国及び東海三県(静岡・愛知・三重)の漁獲量は、1990年代の初頭から一貫して減少する傾向で推移しています。
- 2 静岡県では、浜名湖内が漁場となっており、主に袋網と呼ばれる小型定置網で漁獲されます。
- 3 1989年の105トンがピークで、それ以降減少傾向が続き、2011年以降は5トンを下回って推移しています。



浜名湖におけるクルマエビの漁獲量と放流尾数の推移

【栽培漁業】

浜名湖では、クルマエビを増やすため、1975年頃から人工生産した種苗が放流されています。1997年頃までは50トンを上回る漁獲がみられ、種苗放流が漁獲量増大に寄与していると考えられました。しかし、それ以降は放流を継続しているものの、漁獲量が減少傾向にあり、放流手法の再検討が必要です。

《国の資源動向調査報告へのリンクはこちら》

https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2021/trends_2021_10.pdf

担当者の一言：浜名湖のクルマエビの天ぷらはプリプリしていて最高に美味です。

問合せ先

静岡県水産・海洋技術研究所浜名湖分場 053-592-0139